

無側枝性を有する10月咲き二輪ギク品種の育成

摘芽・摘蕾作業の省力化につながる無側枝性を導入した二輪ギク用秋ギク新品種

研究開発の背景

- ・主に生け花用として全国で生産されてきた伝統のある二輪ギクも、摘芽・摘蕾の手間が敬遠され、全国的に生産面積が減少している。
- ・無側枝性を導入した二輪ギク品種(「千都の風」と「千都の舞」)を育成することにより、省力安定生産を図り、産地の維持拡大と販売促進に寄与する。

研究成果の内容



育成経過：無側枝性輪ギクに奈良県内在来の二輪ギク品種を2回交配。

共通の生育特性：いずれも春期の摘心後に不萌芽株は発生せず、切り花を二輪仕立てに利用できる**適度の無側枝性**を有する。(切り花収量の1~2%程度で頭花が1輪だけとなる切り花が発生する。)

「千都の風」の品種特性：自然開花期が10月上旬の白色品種。摘蕾数は上位15節で0~7節。舌状花表面は黄白色、花盤は黄緑色で、満開時の頭花径は92mm程度、舌状花数は24枚程度で1列。

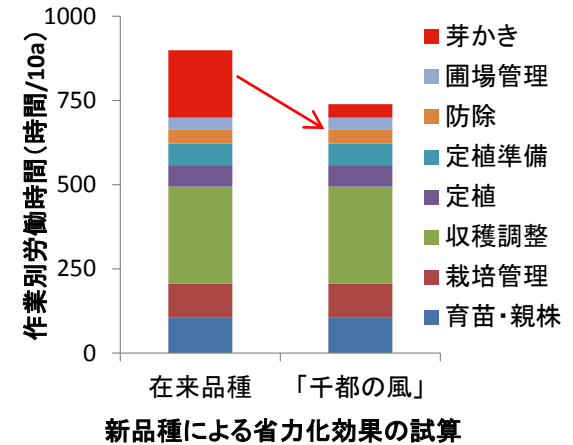
(生産には奈良県との許諾契約が必要)



「千都の舞」の品種特性：自然開花期が10月中旬の黄色品種。摘蕾数は上位15節で1~10節。舌状花表面は明黄色、花盤は黄緑色で、満開時の頭花径は134mm程度、舌状花数は47枚程度で2~3列で不整形の頭花。

導入メリット

労働時間を約22%削減できる
無側枝性品種「千都の風」と「千都の舞」の導入で摘芽・摘蕾(芽かき)作業を軽減



奈良県農業経営試算例(2010年版)により作図

期待される効果

- ・わが国の伝統的花材である二輪ギクの省力安定生産を可能とすることで、国産花きの有利性を強化。

導入をオススメする対象
西南暖地の夏秋ギク産地

開発機関：奈良県農業研究開発センター【予算区分：県単独予算】

問い合わせ先：奈良県農業研究開発センター TEL 0744-22-6201